

## 2024中期経営計画

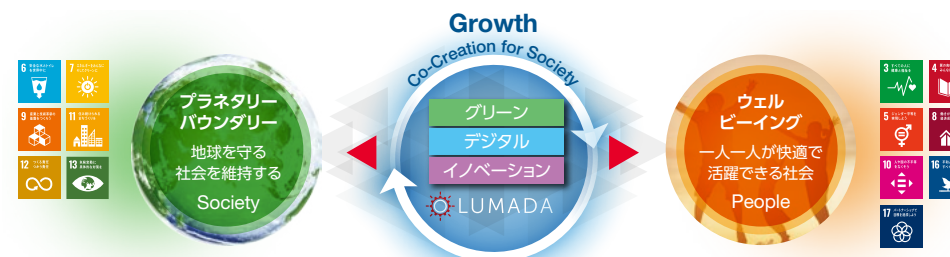
[2024中期経営計画進捗](#)

日立は、経営の主軸をサステナブルな成長へと切り替えていきます。2024中計は、事業ポートフォリオ改革からオーガニックな成長へとモードチェンジし、One Hitachiで企業価値向上を加速させるための重要な転換点です。

### 2024中期経営計画でめざす姿

2024中計では、「デジタル」「グリーン」「イノベーション」の3つを成長ドライバーとして、グローバルな成長をめざしています。この中計のもと、プラネタリーバウンダリーのそれぞれの限界点を意識し、地球環境を守りつつ、社会の一人一人が快適で活躍できるウェルビーイングが保たれた、サステナブルな社会の実現に貢献します。

### データとテクノロジーでサステナブルな社会を実現して人々の幸せを支える



### 業績目標(2024年度)\*1

2024中計では、トップライン、ボトムラインの成長に加え、成長と還元に向けたキャッシュの創出に注力しています。これにより、EPSとCFPSの成長を実現します。

売上成長率 2021~2024年度 CAGR	Adj. EBITA率*2	EPS*3成長 2021~2024年度 CAGR	
<b>5%~7%</b>	<b>12%</b>	<b>10%~14%</b>	
コアFCF*4*5 (3年累計)	ROIC	EPS	CFPS
<b>1.2兆円</b> 株主還元 0.8~0.9兆円	<b>10%</b>	<b>600円</b> 以上	<b>500円</b> 以上

\*1 2021~2024年度実績/計画から、上場子会社と日立Astemoの売上、利益、キャッシュ・フローを減算、非連結化後の持分法利益を加算

\*2 調整後営業利益から買収に伴う無形資産等の償却費を足し戻し、持分法損益を加算して算出した指標

\*3 2021年度の当期利益は一過性影響を除く

\*4 コアFCF=営業CF-設備投資

\*5 上場子会社と日立Astemoの非連結化に伴い、2023年4月に目標をアップデート

### 業績推移とセクター別目標

単位: 億円		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し*6	2024年度 計画*7
今後の連結事業 (3セクター)	売上収益	66,992	76,382	78,400	<b>CAGR 5%~7%</b> <b>(78,000~82,000)</b>
	Adj. EBITA率*8	9.9%	9.5%	10.2%	<b>12%</b>
デジタルシステム& サービス	売上収益	21,536	23,890	24,500	<b>CAGR 7%</b> <b>(26,000)</b>
	Adj. EBITA率	13.1%	12.3%	12.6%	<b>14%</b>
グリーンエネルギー& モビリティ	売上収益	20,510	24,699	25,800	<b>CAGR 13%</b> <b>(29,000)</b>
	Adj. EBITA率	4.5%	6.6%	6.7%	<b>9%</b>
コネクティブ インダストリーズ	売上収益	27,528	29,752	30,000	<b>CAGR 4%</b> <b>(31,000)</b>
	Adj. EBITA率	9.4%	10.5%	11.0%	<b>12%</b>


\*6 前提為替レート: ドル130円、ユーロ140円。前提為替レートから1円円安となった場合の日立連結における為替感応度は、ドルが売上収益+135億円、Adj. EBITA+15億円、ユーロが売上収益+70億円、Adj. EBITA+5億円です(2023年4月時点)

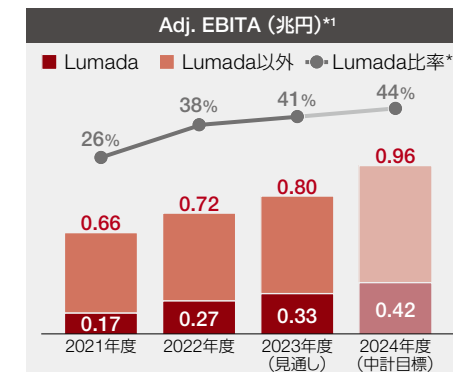
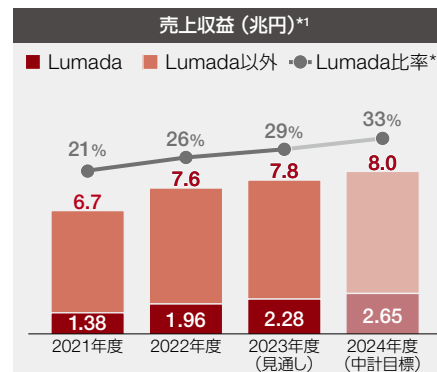
\*7 括弧内は、CAGRから計算した売上収益

\*8 Adj. EBITAの増減分析(2022~2024年度)は、Investor Day(CFOセッション)P.4 を参照

## ▶ Lumada事業がドライブする売上収益と利益の成長

Lumada事業による売上収益および利益拡大が日立全体の成長を牽引します。2024年度には、日立全体の売上収益の1/3、Adj. EBITAの4割強を占めるまでにLumada事業を拡大させます(2022年度:売上収益1兆9,600億円、Adj. EBITA率14%、2024年度:売上収益2兆6,500億円、Adj. EBITA率16%)。Lumadaの顧客協創フレームワークから、多くのユースケースとソリューションが生まれており、これらのユースケースやソリューションの再利用を進めることで、利益率を向上させます。加えて、M&Aで獲得した大型資産も活用しながらサービス・リカーリング比率の向上にも取り組んでいます。

デジタル戦略の詳細については、[P.23](#)  をご参照ください。




\*1 2021~2024年度実績/計画から、上場子会社と日立Astemoの売上、利益を減算、非連結化後の持分法利益を加算

\*2 日立建機の持分法利益はLumadaに、日立Astemoの持分法利益はLumada以外に分類

## ▶ キャピタルアロケーションポリシー

創出したキャッシュを成長投資と株主還元バランス良く分配し、サステナブルに成長していきます。成長投資については、デジタル、グリーン、イノベーションにフォーカスし、財務判断基準を厳格に運用して実施します。魅力ある成長投資機会がある際には、D/Eレシオ0.5倍水準に加え、Net Debt/EBITDA倍率1~2倍を目安にしながら、財務レバレッジをフレキシブルに活用します。

株主還元は、コアFCFの50%と当期利益の50%の双方を考慮して、実施していく方針です。日立は、中長期的な事業計画に基づいた株主還元の実施、適正な株価の形成を通じた株主総利回りの向上を重要な経営課題として位置づけています。今後も方針に基づき、継続的な配当・自己株式取得の実施を検討し、事業成長により得られた利益を株主の皆さまに還元していきます。

財務戦略の詳細については、[P.29](#)  をご参照ください。

